令和４年度第１回健康長寿計画推進検討会議　議事概要

１　日時

令和５年２月１６日（木）　１０時００分～１１時００分

２　場所

埼玉会館　５Ｃ会議室及びオンライン参加

３　出席者

〈委員〉（敬称略・順不同）

大木いずみ（公立大学法人埼玉県立大学　教授）（委員長）埼玉会館会場

緒方　裕光（女子栄養大学　教授）オンライン

奥山　　秀（埼玉県国民健康保険団体連合会　常務理事）オンライン

加藤　英明（公募委員）オンライン

小宮山和正（一般社団法人埼玉県歯科医師会　理事）オンライン

澤田　亨（早稲田大学スポーツ科学学術院　教授）オンライン

柴田潤一郎（全国健康保険協会埼玉支部　支部長）埼玉会館会場

嶋田　敏晴（埼玉産業保健総合支援センター　副所長）オンライン

関野美知子（埼玉県食生活改善推進員団体連絡協議会　理事）オンライン

登坂　英明（一般社団法人埼玉県医師会　常任理事）（副委員長）埼玉会館会場

長棟　美幸（埼玉県保健所長会　草加保健所長）オンライン

横山　徹爾（国立保健医療科学院　生涯健康研究部長）オンライン

〈事務局：健康長寿課〉

課長　加藤絵里子、副課長　矢内孝司、主幹　荒井今日子、主査　大谷栄里、主任　塚越暁絵、主事　守菜々子、主査　小泉伸秀、主幹　鈴木安徳

関係課：疾病対策課、衛生研究所、人材活躍支援課

４　議事

（１）埼玉県健康長寿計画（第３次）の進捗状況について

●　事務局から資料説明（資料１、資料１－２、資料１－３）

●　質疑、意見等

〇加藤委員

資料１のP3⑥低栄養傾向の高齢者の割合が、2015年が15.4%から2018年時点で19.4%とかなり増えていると思われる。

高齢者の低栄養が非常に問題になっているということが、数値としてしっかり出てしまっている点が、他と比べて目立っている。今後の対応方法やこの指標を少しでも改善するための方法についてどのように考えているかお知らせいただきたい。

〇事務局

加藤委員ご指摘のとおり、高齢者の低栄養の割合が高くなっている。本数値は2018年のものであるが、新型コロナウイルス感染症を経て、さらに高齢者の低栄養の割合が高くなっている可能性があるのではないかと、担当としても状況を憂いているところである。

やはり、高齢の方に何らかのアプローチをしていくことは必要と考え、今後昨年11月に実施した国民・健康栄養調査の結果も注視しつつ、高齢者部門の関係課や、本日御出席いただいております食生活改善推進員の皆様等と協力をしながら、フレイルについて高齢の方々に御理解いただけるような対策を考えていきたい。また、その際は先生方に御助言をいただきたい。

（２）地域・職域連携推進協議会の一体的実施について

●　事務局から資料説明（資料２、資料２－２）

●　質疑、意見等

〇奥山委員

説明の趣旨「連携を推進するための体制」「目指す方向」については、よろしいかと思う。これまで取り組んできた事例についても紹介いただいたが、このような取組みによる成果としては、どのようなことが挙げられるか例示いただきたい。

〇事務局

例えば、健康長寿サポーターの養成や健康経営については職域の皆様と一緒に取り組んでいるものである。具体的に、健康長寿サポーター養成講座では、明治安田生命の社員の方にもご参加いただいており、社内でも普及をしていただいている。また、健康経営については、全国健康保険協会埼玉支部と一緒に、中小企業にも広

めていくための取組みを進めている。
さらに、特定健診のデータ解析について、これまで国民健康保険組合加入の方々のデータを中心に解析していたところ、全国健康保険協会埼玉支部からもデータを提供いただくことで、働き盛りの方々の健康状態を知るための分析も加えて取り組んでいる。今後、早いスピードでさらなる高齢化が進む本県において、高齢になっても健康でお過ごしの方を増やすため、今働き盛りの方々の健康状態を把握し、必要な対策を検討し、実行していくことが重要である。業態別の分析や健康経営に絡めて職域の方々とも連携しながら模索しているところである。

〇奥山委員
今後、連携を推進するための事業を確立するにあたり、漠然と「連携する」というだけでなく、より成果が見える形を出していくために重点的に行うものを確立して事業を行うことがよいと思う。

〇事務局
今後そのように取り組めるよう考えていきたい。

〇柴田委員
地域と職域が連携し、県民全体を考えていこうという取組みはまさに必要であると考える。健康経営の推進協議会には埼玉労働局にも参加いただいている。課題となっている小規模事業所の産業保健関係への働きかけについても、労働局に入ってもらうことで円滑に進んだ部分もある。この地域・職域連携推進協議会にもぜひ労働局に参加いただいて、奥山委員の意見のとおり、その後どのように事業を確立するかという点もあるが、国民健康保険だけでなく産業保健の視点も含めて施策を考えていけたらよい。

〇大木委員長
私もこのような連携の理念は必要なことであると考える。今後委員の皆様には、専門のお立場から、さらなるご意見をいただくということで、反対意見等がなければ、事務局案のとおり「地域・職域連携推進協議会の一体的実施について」承認したいと思う。

●地域・職域連携推進協議会の一体的実施について委員の合意を得た。

５　情報提供

次期埼玉県健康長寿計画の策定について

●　事務局から資料説明（資料３）

●　質疑、意見等

〇奥山委員

・現行の「埼玉県健康長寿計画（第３次）」の評価において、現時点の評価でも悪化している項目があると思う。計画期間も残すところあと１年であるが、最終的な評価をするまでに悪化している項目については改善策を考えるべきである。

・第３次計画の最終評価が、スケジュール案では令和６年１月頃となっているが、その前の段階（次期計画の素案を検討する段階）で、直近での第３次計画の評価の見通しをお示しいただきながら、骨子と素案が適当であるかどうかという検討が進められると良いのではないか。

以上